



TEL 0766-251555
FAX 0766-251550
E-mail info@kri-shouten.com

平成十九年一月二十日
〒九三二〇八〇四
高岡市問屋町四十
有限会社 沖商店 発
2019.01.20

いつもお世話になりありがとうございます。

『人は何の為にこの世の中へ生まれて来たのでしょうか』『人生の本来の目的は何なのでしょう』ということをご希望と一緒を考え、意見を交換し相つて、共に研鑽を深めて行きたい。そんな思いで本通信をお届けしている次第です。どうか忌憚の無いご意見をお寄せくださいませ。

一 楽しい後は寂しい

二〇〇七年、平成十九年あけましておめでとうございます。この一年も充実した楽しい年でありますようにお祈り申し上げます。

今年の正月は私にとつて最近にない楽しいものでした。と申しますのは、イギリス人と結婚した次女が夫婦で里帰りに来るのにあわせ、夫の両親と弟とその婚約者が遊びに来たのです。三十一日に着いて四日に帰って行きました。二ヶ月くらい前に知らされていましたが、日本の家庭の正月を満喫したいということなので、私の家で四泊させました。幸い、私には長男、長女、次女、三女と四人の子供がいましたので、二十余年前に新築した現在の我が家は、玄関上がりの吹き抜けの板の間を囲んで、二階に三部屋、中二階に一部屋、一階に三部屋と台所・便所・洗面所・風呂場と機能的に配置されています。今、老夫婦二人だけの住まいにしては、無駄な遊び部屋が多く、勿体無い思いをいたしました。が、久しぶりにその機能を發揮する機会がとおとずれたわけですね。とはいえ空き部屋はいろいろ物置代わりに為りがちで、妻はその整理にかなり労力を費やしたようです。夜具も足りませんのでレンタルを利用しようかと思いましたが、市内にもう一軒住宅を手に入れた際に、そこへ三組備えておいたのを思い出し、それを使用することにしました。

このように準備万端の中、先ず二十七日、次女がロンドンから成田経由で午後九時、小松空港に到着しました。私たちは二人で小松空港まで出迎えに行きまし

た。続いて次女の夫が三十日、同じ航路で到着。その間、大阪から電車で三女が帰って来ました。翌三十一日、向うの両親と弟カップルが上海からの小松直行便で十二時半に到着しました。次女夫婦が車二台で出迎えに行き、そのまま雨晴海岸をはじめ高岡市内見物をして六時頃我が家に着きました。

私は、例によって朝から酒を飲み、少々待ちくたびれ気味でしたが、大勢の客を迎えるときは元気がなくなり、さつそく歓迎パーティーならぬ、夕食会の開始をすることにしました。先ずは各部屋に落ち着いてもらわなければなりません。両親は二階一番奥の一番広い部屋。隣の和室8畳間には弟カップル、その隣6畳洋間には三女、中二階には次女夫婦、一階6畳仏間には私たち、これで玄関板の間奥・仏間と台所間の10畳の居間を除けば、一階8畳の座敷だけが残されました。これも二日に名古屋に嫁いでいる長女夫婦が孫二人連れて来ると塞がり、まさに我が家は満杯、フル回転となります。これに長男夫婦を加えて総勢15人が一つテーブルを囲んでの宴会となると、想像するだけで楽しくなつてきます。各々部屋へ落ち着いた後、さつそく夕食となります。

10畳の居間には畳一枚ほどの大きさのテーブルが設えられ、妻が精魂込めて準備・料理したご馳走が所狭しと並べられ、その周りを長女一家を除いた十一人が取り囲み、大晩宴会のはじまりです。英語と日本語（今回は日本人も分からない高岡弁）を次女夫婦の通訳で、わいわいがやがやと飲む酒は殊の外美味しく、その限りを知りません。相手の父親もよく飲むと聞いていましたが、噂にたがわず強かったです。アルコール類は何でも飲む」ときいていましたので、ビール、ワイン、日本酒、焼酎、ウイスキー、ブランドデー、紹興酒、白酎、とこちらで準備できる限りのものを集めておきました。その上、なかなか手に入らず順番待ちで手に入れたという四十年ものスコッチウイスキーを、彼が私への土産として持ってきたので、まさに酒の飲み比べになりました。彼の土産のスコッチウイスキーは、なかなか手に入らないというだけあって、ストレートで飲んでも（本来の味が損なわれるように感じられ、私は酒を湯水で薄めて飲みません。）喉に引つかかりません。「ヘネシーXO」と飲み比べましたが、「ヘネシーXO」はまだまだ及びません。まろやかさは「ルイ十三世」級とみました。飲み易さのあまりボトルはたちまち空いてしまいました。後で聞いた話

ですが、彼は私にもっと大切に飲んでほしかったらしいのです（でも、自分のプレゼントをそれだけ気に入って貰ったことに満足だったそうです）。

宴もたけなわになるころ年が明けました。日本人の慣わしを見せたくて初詣に誘いました。近所の寺に除夜の鐘を突きに行き、町内にある神社に詣でました。その間30分、程よい酔い覚めの散歩の後にはまた酒が進むものです。「年の始めのためしとて、終りなき世のためたさを、酒酌み交わして夜を徹し、祝う今日こそめでたけれ」帰ってから再度宴会の続きで床に就いたのは午前三時ごろだったか。

元旦、目が覚めたのは正午ごろ。両親、次女夫婦、弟カップルに三女を加えた七人は、昨日に引き続き、高岡市内観光に行ったとのこと。私は「寢覚めの水」代わりにビール、続いて焼酎、晩酌ならぬ昼酌。四時ごろ夜に備えてサウナ（歩いて五分ぐらいの所にあり370円）で二時間、サウナ風呂、水風呂、熱湯風呂など冷熱交互に浴して、アルコール分はどれだけ抜けたか分かりませんが、元氣回復・気分爽快になり、いざ出陣。今晩はホテル地下の酒処で夕食です。市内観光帰りの一行と現地で合流、昨晩の宴会を、場所を変えてやっている感じ。九時ごろお開きとなり帰宅。その後、自宅でもまた飲み直して午前二時ごろまで宴会。

二日、十時ごろ起床。一行は金沢市内観光へ。私は例のごとく、水代わりのビールからいつもの焼酎へと正月ならではの昼酌。気分良く飲んでる時にここでアクシデント。長女から「下の孫が風邪をこじらせ、こちらへ来られる状態ではない」との事。「神様は何といじわるな、こんな時に限って」と思いましたが仕方がありません。二日の夕食は、孫二人を引連れた長女一家を加え、最高の盛り上がり期して準備していましたが、残念ながら彼ら抜きで期待以下の晩宴会となりました。でも、いままでの賑わい以下というわけではなく、相変わらず宴は賑わい、この晩も午前二時ごろまで飲み・語り相いました。

三日、十時ごろ起床。一行は市内へ最後の買い物、観光へ。今宵は今回彼ら一行を迎えた最大のイベントが控えています。それは「今回の彼ら一行を迎えるのを機会に、私たち側の親戚を紹介しておきたい」と私の望みによるものでした。本通信第一二三号でも記しました通り、次女の結婚披露に対して、あまりにも遠過ぎて迷惑をかけると思い、私たちの側からは私たち夫婦と本人の兄弟姉妹だけの参加とし

ましたが、そのことがずつと気になっていました。方や彼等にも日本式宴会の一端なりとも味わわせてやりたいとの想いもあり、この機会に紹介したいと「披露宴まがいの宴を企画した次第です。それで、私たち夫婦の兄弟姉妹を招待し、高岡ホテルで高御膳での純日本式宴会を催しました。我が兄弟姉妹たちの快い参加を得、宴会は弥が上にも盛上がり、彼らは大変感激していました。宴会終了後、一行は最後の夜を惜しむように、ボーリング・ゲームセンターへ行きました。

四日、いよいよお別れです。午後一時半小松空港フライトですからこちらの出発時刻は十時半くらいです。来た時同様、次女夫婦が車二台で送りますが、別れは寂しいです。本当に寂しかったです。そんな想いにさらされたみかけするように、昼下がりに三女が大阪へ帰りました。

五日、次女の夫が帰りました。小松空港八時半発というので、早朝六時のお別れです。紙が一枚一枚剥がれる様に、私の傍から送って行きます。七日、次女が帰りました。夫と同じ小松空港八時半発ですから、早朝六時に妻と三人家を出ました。彼女を送り八時過ぎに家に帰りました。二人きりになつて妻はほつとしたことでしょう。私は、何ともいえない寂しさに包まれていました。

これは、今回だけのことではありません。近頃は、楽しさの後は寂しさが待っている、そして、その寂しさは、先の楽しさが大きければ大きいほど、深々と感じられるのです。楽しみを求めて海外旅行などをしますが、行くまでとその最中は確かに楽しいのですが、終わった途端に、えもいわれぬ寂しさに襲われます。そこにはこの楽しい人生が終わつたら寂しい孤独が待っているとの暗示のようにも思われます。それで、「最初から楽しさを追い求めないほうが良いのかな」とまで思うようになります。

こんなことを感じるのには私だけなのでしょうか。人一倍、楽しさを求めるからでしょうか。人一倍、楽しんでるからでしょうか。そして、近頃特に強く感じるのには歳の性なのでしょうか。教えてください。是非、皆さんのご意見をお聞かせください。

有限会社 沖商店 代表取締役 沖昌弘

個人メールE-mail 062525@kri-shouten.com
にこにこ通信への意見をはじめ個人的な連絡は、個人メールへ